



あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。 2016年5月27日発行 46,370部

親子のコミュニケーションを 考えてみよう



子どもが生まれ、まだまだ言葉を発しない時に多くの親が願うことの1つに、「早くおしゃべりして欲しい」ということがあります。まだまだ小さい赤ちゃんの頃の子育てって、意思表示を言葉で表せないことが、お母さんの育児の不安のひとつだったりします。

その後、おしゃべりできるようになり、子どもがいろいろとお話をしてくれるようになると、ちょっと安心してきますよね。

そして、子どもたちが園に通うようになり、小学生になり・・・子どもの世界が広がってくるようになりいろいろをお話してくれるようになると、また違う悩みが困りごとまでくるわけです・・・。

子どもとの会話で、こんなことを感じたりするようになります。

- そもそも何が言いたいかわからない
- 話題が度々飛び
- 今のことや以前のことが混在するので、いつの話かわからない
- 指示がいくつも入っていて優先順位がわからない
- 登場人物が多すぎる
- 自分の意見と人の意見が混ざっている
- 自分の意見であるにもかかわらず、違う意見が混在している
- その話が聞いている私とどう関係があるかわからない
- 良くも悪くも感情的で、感情しか伝わってこない
- 音声が嫌（声が大さすぎる、高すぎる、不明瞭等）
- 言っていることと、実際にやっていることが違う

こんなことを、子どもとの会話で子どもに対して感じることもあるでしょう。

いや、大人との会話でも感じることもあるでしょうね・・・

実は、これって子どもに対して感じていることがあったとする前に、大人にも多く感じられることなのです。こういうことが会話・コミュニケーションの中で発生してしまうと、混乱してしまうこととなります。

もう、うちの子ったら、ホントに何言ってんだわかんないわ!

と感じる前に、「わたし」「自分」はどうなのか?を振り返ってみた方が良さそうです。



特に、混乱しやすいと自覚している大人は、シンプルに話してみることを心がけることをお勧めします。



ひとつのフレーズで
ひとつのテーマ。

それが
終わったら

次。

という風に、区切って話す。区切って伝える。ということをお心がけることで、スムーズなコミュニケーションに繋がります。

すでに始まっていますが、コミュニケーションをうまくしていくことが、相談をスムーズに進めていく基本でもあります。わかってくれない・・・というよりも、伝え方をちょっと工夫してみませんか?という観点から講座を勧めています。

ソーシャルカウンセリング講座を開講中です。

参考ブログ: asnako.com

いろいろな言葉を使い、いろいろな切り口で同じことを伝えていくよなあと思うことがたくさんあります。たとえば、「人は自分の価値観で話を聞くものだ」ということも、良くいわれることだと思いますが、理解できるように理解できないことが多いと感じています。人にはそれぞれの物差しがあるんだよ。その物差しの長さはそれぞれ違うから長さが違うんだよ」ということで理解できる人もいます。▼人は自分の「今」、理解できること「で物事を計ってしまい、理解しようとしてしまうので、わかることのばらつきが出るのだと思います。これは、もちろん子どもにも言えることで、「年齢」「環境」「その子の発達具合」によって、同じことでも理解度がバラバラになるということです。▼多くの子どもが理解できる伝え方と理解の度合いから少し外れてしまう子もいるでしょうが、そうなること、「伝える側の大人の課題」になってきます。「伝えるスキル」のバリエーションを大人が変えていかにすることは、全体に伝わる可能性が低くなってしまいます。「伝えるスキル」を習得していくこと、その背景を理解していくことは、大人の役目だと考えます。